

[果樹部門]

1. 「白鳳」と同時期に成熟する中生のモモ新品種「岡山モモ 17号」の育成

[要約]

「白鳳」と同時期に成熟し、果実が白くて果皮着色しにくく、糖度が安定して高く、食味の優れる、中生のモモ新品種「岡山モモ 17号」（系統名）を育成した。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 果樹研究室

[連絡先] 電話 086-955-0276

[分類] 技術

[背景・ねらい]

岡山県で栽培されているモモの中生品種のうち、「白鳳」は果皮着色しやすく、年によって糖度が不安定となりやすい。そこで、「岡山白桃」のシリーズ化を目指して、「白鳳」と同時期に成熟し、果実が白く果皮着色しにくく、糖度が安定して高く、食味の優れた中生のオリジナルモモ新品種を育成する。

[成果の内容・特徴]

1. 2005年に「清水白桃 RS」の自然交配から得られた交雑実生個体について、2012年から「岡山モモ 17号」として選抜を継続し、育成した品種である。
2. 開花盛期は「白鳳」より2日程度早く、花粉を有する。果実の収穫盛期は7月下旬で、「白鳳」より2日程度早い。「白鳳」に比べて果皮着色しにくく、裂果や生理的落果は少ない（表1）。
3. 果実は240g程度の円形で、糖度は「白鳳」より安定して高く、果肉が軟らかいため、食味は優れている。核は粘核で、核割れは「白鳳」より少ない（表2、図1）。

[成果の活用面・留意点]

1. 栽培は岡山県内に限定し、当面県外へは苗木を供給しない。
2. 親品種である「清水白桃 RS」のような花粉不稔や結実不良は認められない。
3. 「岡山モモ 17号」は系統名であり、別の登録名称で品種登録出願（第29933号）を申請中である。また、生産振興上の名称は別途検討予定である。
4. 本品種は「岡山PEH9号」として品種登録(2018年2月8日)された。「追記2018年9月」

[具体的データ]

表1 「岡山モモ17号」の生育特性^z

品 種 系 統 名	開花盛期 (月.日)	収穫盛期 (月.日)	花粉 有無	果皮 着色	裂果 多少	生理的 落 果
岡山モモ17号	4. 3	7.21	有	微	無	微
白 鳳	4. 5	7.23	有	少	無	微
清 水 白 桃	4. 4	7.30	有	微	無	微

^z 育成地における 2013～2014 年（2～3年生）の平均値

表2 「岡山モモ17号」の果実品質^z

品 種 系 統 名	核の 粘離	果実重 (g)	糖度 (°Brix)	果汁 pH	核割れ 多 少	食味 評価 ^y
岡山モモ17号	粘	238	14.7	4.3	無	中上
白 鳳	粘	237	12.5	4.6	微	中下
清 水 白 桃	粘	274	14.3	4.7	微	中中

^z 育成地における 2013～2014 年（2～3年生）の平均値

^y 食味評価は官能試験における下下～上上の9段階評価



左：白鳳 中：岡山モモ17号 右：清水白桃

図1 有袋栽培の果実比較

[その他]

研究課題名：モモ新品種の育成

予算区分：県単

研究期間：2005～2014年度

研究担当者：日原誠介、田村隆行

関連情報等：日原ら（2015）、品種登録出願 第29933号